

平成18年度第1回関東ブロッククラブ育成推進協議会開催報告

日時：平成18年9月29日（金）14：00～18：00

場所：岸記念体育会館2階 理事・監事室

平成18年9月29日（金）に第1回関東ブロッククラブ育成推進協議会が、開催され、地方企画班員6名、各県体協担当者・クラブ育成アドバイザー14名、日本体育協会7名の総勢27名が出席しました。

本協議会は、「関東ブロックにおいてクラブ育成推進事業における育成指定クラブやクラブ育成アドバイザーが抱える課題を明らかにし、問題解決の糸口を探るため情報の共有化と関東ブロックにおけるクラブ創設支援のためのネットワークの強化を図る。」を目的とし、グループ別と全体会により各県の現状、課題等意見交換が活発に行われました。

1. 第2回関東ブロッククラブ育成協議会（12/2）について

概要について松澤班長から説明があった。

（1）100人程度の規模になる。

（2）目的・成果については、参加者間のコミュニケーション促進 具体・詳細な情報の入手 参加者のモチベーション向上とする。

（3）設立済総合型地域スポーツクラブからのブース発表形式（ポスターセッション方式）として参加している各育成指定クラブが巡回してコミュニケーションを深める。

（4）ブース発表形式の方法は、今後も各都県のアドバイザーのみなさんからご意見をいただいて効果的な方法とすることにした。なお、ブース発表形式を本日の協議会で承認した。



2. 育成推進事業の成果・課題の報告、意見交換

Aグループ（各都県体協委託事業進捗状況報告（体協））について

Aグループは、栗原地方企画班員を進行役として「各都県体育協会総合型地域クラブ育成支援委託事業等進捗状況の資料に基づき、次のような意見交換を行った。

【主な話題】

各都県体育協会事業と広域SC事業の連携と課題
普及啓発活動としてクラブ未設置市町村への対応方法について
各都県開催のクラブマネージャー研修会とアシスタントマネージャー資格研修事業の免除の関係について
総合型地域SC育成協議会の活動



による啓発活動について

【体育協会と広域SCについて】

現在は、広域SCが体育協会内部の組織と教育委員会等の内部組織の2パターンとなっている。今後は、組織の整備等によって各クラブからわかりやすい組織として機能することが大切である。

【普及啓発活動について】

普及啓発活動では地域クラブに対する地域毎の温度差や合併による行政側が消極的なことが報告された。

【普及啓発活動についての助言】

意見交換の中で、根本課長から「クラブに対して消極的な地域は、スポーツマスターランがない地域が多い。根本的な部分を改善するように指導することが大切である。」と助言があった。

Bグループ（各都県クラブ育成状況報告）について

Bグループでは、クラブ育成アドバイザーがそれぞれの都県におけるクラブ育成状況の報告をおこない、それをもとに意見交換を行った。各都県の状況については、会員数や予算規模のみならず、現状に至った理由についてもかなり詳細な分析がなされ、そのデータからこれまでの成果、課題、対策、そして要望が報告された。多くの都県が、啓発・意識改革、人材育成、財政、支援体制（連携・ネットワークなど）の整備といった課題を抱えるなか、具体的な対応について活発な意見交換がなされた。例えば、啓発活動については、地域住民のみならず行政関係者や各種団体もその対象であることを認識すること、膝をつき合わせてのコミュニケーションが非常に重要であることなどが報告された。また、人材育成という点では、役割分担や組織としての意志決定方法など組織化のサポートを意識的に進めることの必要性などについても議論した。さらにクラブ支援体制に関しては、広域SC、都県体協などの役割分担についても整理が必要であるとの認識が示された。このような活発な議論を通じて、今後のクラブ育成支援の考え方を共有することができた。



最後に、A班・B班それぞれの報告を栗原地方企画班員と作野地方企画班班員が意見交換の内容について報告した。（概要は、上記育成推進事業の成果・課題の報告、意見交換を参照）

【まとめ】

今回の目的は、「育成指定クラブやクラブ育成アドバイザーが抱える課題を明らかにし、問題解決の糸口を探るため情報の共有化」であった。2グループに分かれて意見交換ができたことで一部の課題では情報の共有化が深まったと感じる。今後は、各都県が抱える地域の独自性がある課題の共有化のために意見交換を進め、共通の課題について解決策を模索するための「地方企画班班員」の活用による「ピンポイントアドバイス」等が手軽にできるようにするとスピーディーに活動できると感じた。

（報告；関東ブロック地方企画班員 小出 利一）